

か どう ぜ き か い ら ん ばん 可動堰回覧板

平成17年9月1日号 (NO.2)
国土交通省北陸地方整備局
信濃川河川事務所大河津出張所
TEL 0256-97-2121
E-mail shinano@hrr.mlit.go.jp

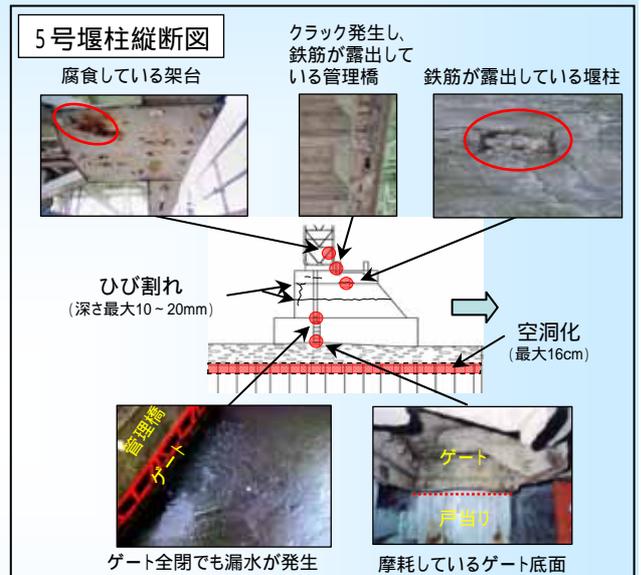
回覧

前号の『可動堰回覧板』では、新しい可動堰をどこにつくるかご紹介しました。
第2号の今回は、可動堰の改築がなぜ急がれているのかをご説明します。

現在の可動堰の状況

現在の可動堰は昭和6年の完成から74年が経過し、今もなお越後平野を洪水から守ってきましたが、老朽化が著しいためさまざまな調査を行ったところ、いろいろな箇所で見つかった問題点が発見されました。

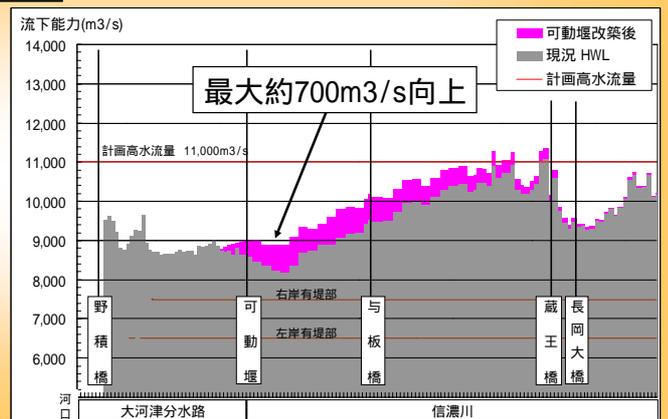
1. 可動堰底部に空洞があり、堰の安定性が低下
可動堰底部のほぼ全域にわたって空洞化を確認。(最大16cm)
2. 堰柱・管理橋の傷み、架台・ゲートの腐食が堰全体に進行
いたるところが傷んでおり、抜本的な改修が必要。
3. 洪水時には右岸堤防に水当たりが集中
可動堰直下流の右岸側は高水敷(河川敷)が無いので、洪水時には右岸堤防に直接洪水が当たる箇所(水衝部)となり、破堤の危険性がかかっている。
4. 小千谷地点より下流区間では、流下能力がもっとも小さい
可動堰地点の河床が高いため、洪水を安全に流すことができる能力が最も小さい地点となっている。



〔調査の結果などについて詳しく知りたい方は、調査第二課までお問い合わせ下さい〕

堰改築事業による効果

- ・より安全性の高い施設に生まれかわります
(上記1.2.の解消)
- ・右岸側堤防に直接当たっていた洪水が、分水路の中央をスムーズに流れ、右岸水衝部が緩和されます
(上記3.の解消)
- ・可動堰地点の河床を下げる事により洪水を安全に流すことができる能力が向上します
(上記4.の解消)



工事の紹介

先月号でご紹介した工事に加え、今月から2つの現場で新たに工事が始まります。
大河津橋をはさんで、上流側：『大河津可動堰下流河道掘削その2工事』
下流側：『大河津可動堰下流河道掘削その3工事』 です。

それぞれ、大河津分水路左岸側の高水敷の土砂掘削及び運搬を行います。掘削した土砂は柔らかいため、土質改良(セメントなどを混ぜて固めやすくなるようにする)を行ったのち、長岡市中之島中条地先、長岡市長呂地先及び与板町本与板地先の「新潟県中越地震」で被災した信濃川の堤防災害復旧工事箇所に運搬し、堤防の盛土として使用します。

土砂搬出予定先



長岡市中之島中条地先
(堤防災害復旧工事)

<先月の工事状況>



掘削土砂土質改良状況



信濃川河川事務所発注工事の工事用車両には下記のようなプレートが付いています。

国土交通省

信濃川河川

可動堰 工事用車両



工事用道路拡幅予定
(大河津橋右岸下流橋詰め)

- 前回ご紹介した『大河津可動堰下流河道掘削工事(請負者:寺泊産業・相村組JV)』で、大河津橋右岸(分水町側)下流の橋詰め坂路を工事用大型車両が通行できるように、道路の拡幅工事を8月下旬から実施しています。
- 9月末完成の予定ですが、工事中の昼間は通行止め(17:00以降の夜間は通行止め解除)となりますので、ご協力をお願い致します。

工事や河川に関することはなんでも大河津出張所へ Tel 0256-97-2121(建設監督官在所)
大河津出張所 :大河津分水全般に関する工事監督・維持管理等
建設監督官(可動堰改築担当):大河津可動堰改築事業に関する工事監督等

信濃川河川事務所
<http://www.hrr.go.jp/shinano/>

可動堰情報館
<http://kadouzeki.jp>

信濃川大河津資料館
<http://ohkouzu.jp>